平成２１年６月定例会

農 林 商 工 委 員 会

所 管 事 項 関 係 資 料

平成２１年６月

農　林　水　産　部

目　　次

１．農林水産業及び農山漁村に関する年次報告について［農林政策課］----------1

２．国営かんがい排水事業「旭川地区」の地区調査について［農山村振興課］------ 3

３．農作物の生育状況及び価格動向について［水田総合利用課・農畜産振興課］---- 6

４．平成２０年度決算特別委員会において「検討する」旨答弁した事項の検討状況--9

１．農林水産業及び農山漁村に関する年次報告について

農 林 政 策 課

平成15年３月に制定された「秋田の農林水産業と農山漁村を元気づける条例」に基づき、農林水産業及び農山漁村の動向並びに農林水産業及び農山漁村の振興に関し、県が講じた施策を報告する。

１　農林水産業及び農山漁村の動向

（１）概　要　　農林水産業及び農山漁村の動向について記述

ア　農業分野

・　平成19年の農業産出額は1,825億円で、前年より36億円減少
（全国20位、東北6位）

・　部門別では、米が1,077億円（構成比59%）で、前年より31億円減少
（全国 3位、東北1位）

・　野菜は279億円（構成比15.3%）で、前年より14億円増加
（全国26位、東北4位）

（※①青森 680億円、②福島 551億円、③山形 334億円、⑤岩手 276億円、⑥宮城 273億円）

・　平成20年度末現在の認定農業者数は10,133経営体　　（全国 4位、東北1位）

イ　林業分野

・　平成19年の林業への新規参入者は、過去10年で最も多い105人

・　平成19年の素材生産量は898千㎥、対前年30千㎥の増加

ウ　水産業分野

・　平成19年のハタハタの漁獲量は1,653tで、平成13年以来第1位

エ　農山漁村分野

・　平成19年の農山村と都市住民等の交流参加者数は78,632人と年々増加

（２）特　集（注目されている制度・計画の内容等を特集として掲載。）

ア　農業分野

・　農業基盤整備及び農村生活空間整備の推進

・　食料自給率向上に向けた取り組み　～あきた型食料自給力向上対策事業～
（巻末特集１）

イ　林業分野

・　第５９回全国植樹祭アルバム（巻末特集２）

（３）トピックス（特徴的な取組、対策や地域振興事例を掲載）

ア　農業分野（抜粋）

- 県産農産物・食品の海外でのＰＲ
- 「地産地消の仕事人」を選定!!
- スギッチの食育紙芝居で子供向け食育の啓発
- 首都圏マーケティングの強化とバイヤーと連携した業務用野菜対応の促進
- 待望の新品種「ゆめおばこ」が産地品種銘柄に設定
- 飼料価格高騰と畜産関連対策の実施状況
- 肥料等の高騰と関連施策の実施状況
- 泉谷美津子さん「農山漁村女性チャレンジ活動表彰」農林水産大臣賞受賞
- あきた型ほ場整備は新たなステップへ!
- 農業を仕事にしたい！～「就農準備実践研修」の合同面接会に多数の参加」

イ　林業分野

- 県内消費者に向けた県産木材のアピール

ウ　水産業分野

- 県産魚介類の新価値創出「あきた水産ビジネスモデル戦略会議」を開催

エ　農山漁村分野

- 中山間地域等直接支払制度の実施状況
- 高齢化等集落対策への取組
- アグリビジネスの動き
- 「２００８秋田県中山間ふるさと水と土現地見学会」を開催
- 「２００８Akitaふるさと活力人（かつりょくびと）養成セミナー」の実施

（４）参　考

- 活力ある農村集落づくりの推進と高齢化等集落対策
  （活力ある農村集落づくり推進チーム）
- 秋田発・子ども双方向交流プロジェクト（総合政策課）

２　農林水産業及び農山漁村の振興に関し県が講じた施策

農林水産業及び農山漁村の振興に関し、県が平成20年度に講じた施策を総合計画の体系にしたがい掲載。

２．国営かんがい排水事業「旭川地区」の地区調査について

農山村振興課

昭和２７年から５５年にかけて、国営雄物川筋農業水利事業「旭川地区」で築造された幹線用水路等の老朽化が著しいことから、関係市町・土地改良区の要望により、国営かんがい排水事業の地区調査を国に申請する。

１．想定する事業概要

（１）関係市町等

横手市、大仙市、美郷町

受益面積　３，３００ha （≧　３，０００ha、国営要件）

（２）予定事業規模

ア	幹線用水路	１３ｋｍ	（改修・補修）
イ	あいののダム	取水・導水施設等一式	（　〃　　〃）
ウ	頭首工	４カ所	（　〃　　〃）

（３）概算事業費

ア	国営事業	約８０億円
イ	国営附帯県営事業	約２０億円

２．調査及び事業実施

（１）地区調査・・・事業計画案の作成

平成２２～２４年度（全額国費）

（２）全体実施設計・・・詳細設計

平成２５～２６年度

（３）事業実施（予定）

平成２７～３５年度

（参考）国営かんがい排水事業「旭川地区」のフロー

○　関係市町・土地改良区は、幹線用水路等の改修を国営事業として行うため、「地区調査」の手続きを、県が国に申請するよう要望している。

○　地元要望　平成２１年５月１８日　横手市長他４名から知事へ

【要望者】

横　手　市　長		五十嵐　忠悦
大　仙　市　長		栗林　次美
美　郷　町　長		松田　知己
秋田県南旭川水系土地改良区	理事長	藤井　弘道
大仙市大曲土地改良区	理事長	仲村　力夫

【地区調査の申請】知事→東北農政局長

地区調査（３年程度、全額国費）　・・・事業計画案の作成

※　平成２２～２４年度

【事業実施の意向確認】東北農政局長→知事
【同上回答】市町村長・土地改良区理事長→知事→東北農政局長

全体実施設計（１～２年程度）　・・・詳細設計

※　平成２５～２６年度

【負担内諾協議】事業費負担の協議
　申請人が県・市町村と協議し、県・市町村が内諾
【事業施行申請】申請人（知事経由）→農林水産大臣

着　　工

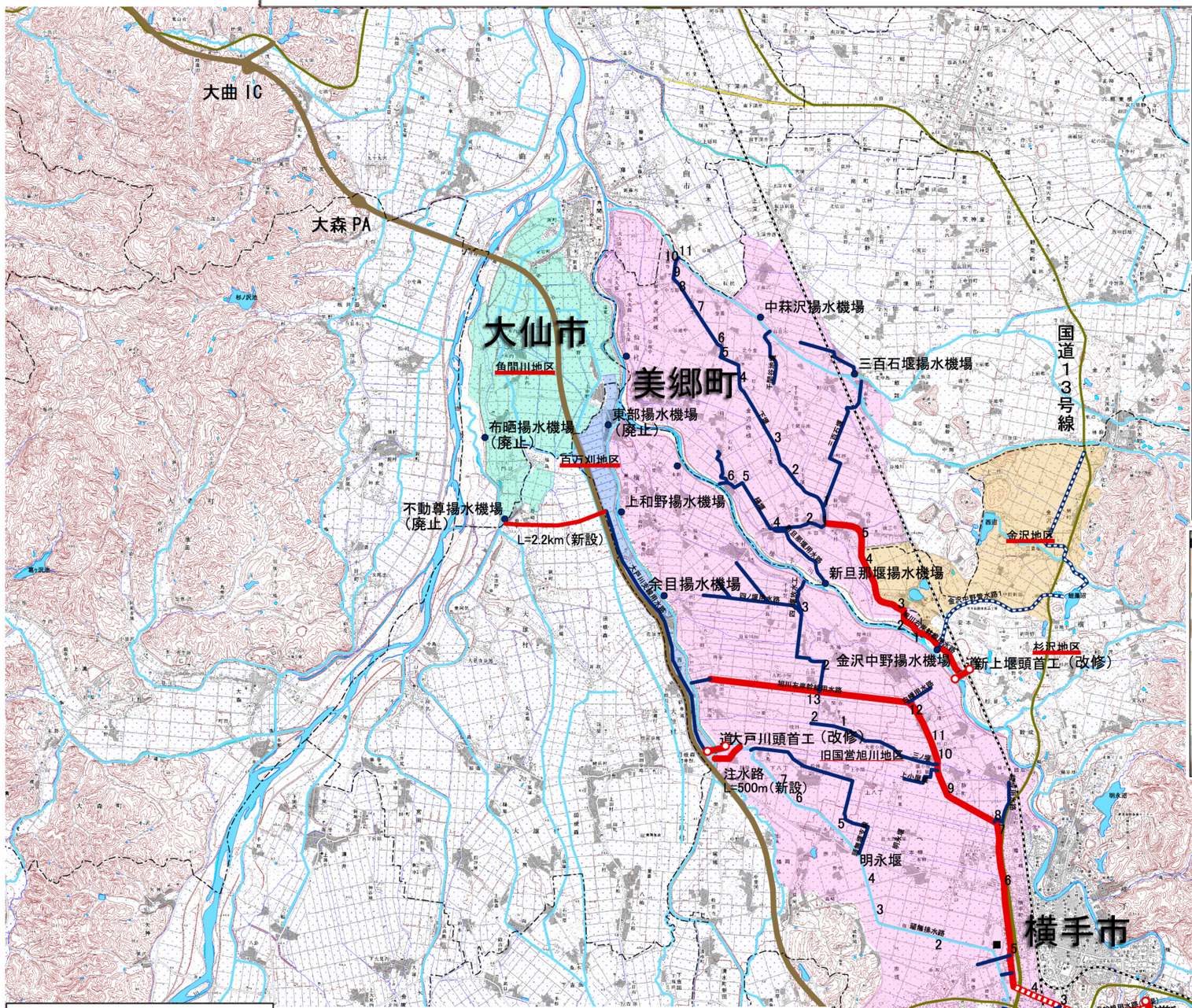
※　予定工期　平成２７～３５年度（９カ年）

（参考）事業費の負担割合

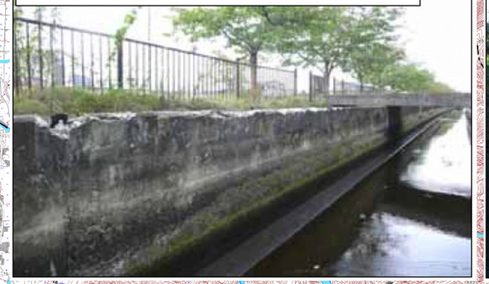
	負　担　割　合（※）			備　考
	国	県	地元	地元負担の内訳
国営事業	80%	10.33%	9.67%	市町 6%、農家 3.67%
国営附帯県営事業	50%	25　%	25　%	市町10%、農家15%

※　負担割合は、国営及び県営かんがい排水事業「平鹿平野地区」のケース。

旭川地区　一般計画平面図

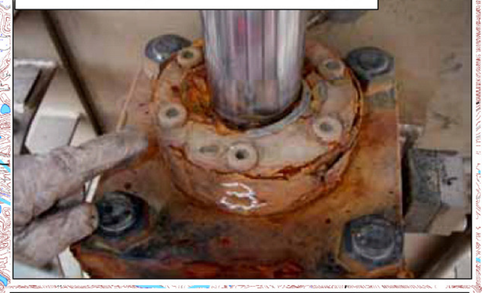


旭川左岸幹線用水路【天端・目地部欠損】



旭川右岸幹線用水路【はらみ・陥没】

ダム取水塔【油圧シリンダー損傷】



導水隧道【10mmのひび割れ】

大戸川頭首工【油圧ユニット油漏れ】

新上堰頭首工【ひび割れ・欠損・鉄筋露出】

凡例

用水路

- 国営幹線（開渠）・改修（新設）
- 県営支線（開渠）・既設
- 国営幹線（暗渠）・改修
- 県営支線（暗渠）・既設
- 県営支線（開渠）・新設

地区名

- 旧国営旭川地区
- 金沢地区
- 百万刈地区
- 角間川地区

旭川地区受益面積（H20.3月時点）　　単位：(ha)

	受益面積	備考
旧旭川地区	2528.4	南旭川水系土地改良区
金沢地区	271.4	〃
百万刈地区	85.2	〃
角間川地区	418.2	大仙市大曲土地改良区
計	3303.2	

３．農作物の生育状況及び価格動向について

水田総合利用課
農畜産振興課

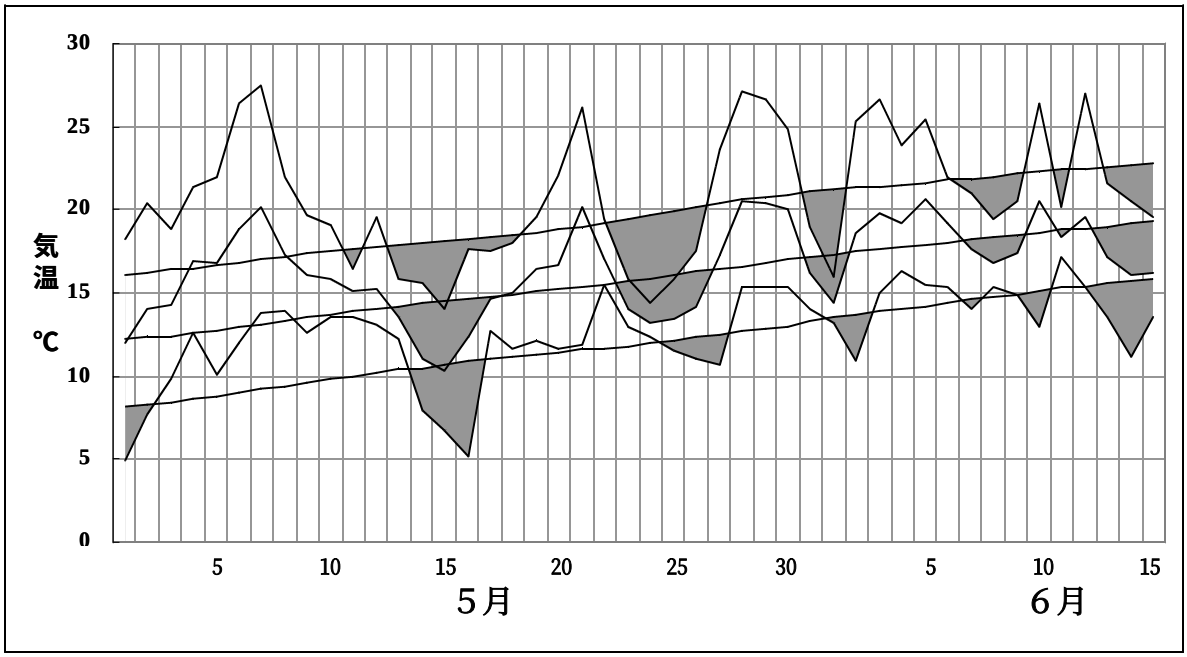
１　気象経過（秋田地方気象台発表：秋田市）

気温は、５月の平均気温が15.8℃（平年差+1.6℃）とかなり高く、６月上旬は18.4℃（平年差+0.6℃）と高かった。

降水量は、５月が76.0㎜（平年比62%）とかなり少なく、６月上旬は15.5㎜（平年比52%）と少なかった。

日照時間は、５月が194.0時間(平年比101%)と平年並、６月上旬は33.2時間（平年比51%）とかなり少なかった。

平成２１年５月１日から６月１５日までの気温の推移（秋田地方気象台：秋田）



上段：最高気温、中段：平均気温、下段：最低気温

２　水　稲

草丈や葉数は、平年並である。

１平方メートル当たり茎数は、移植時期の低温、６月上旬の少照の影響により平年に比べて少なかったが、天候の回復により、以降の分げつの発生は概ね順調に推移すると見込まれる。

【 定点調査結果 】　（各普及指導課調査：６月10日現在）

品種	地区	草丈			㎡当たり茎数			葉数		
		本年(cm)	前年比(%)	平年比(%)	本年(本)	前年比(%)	平年比(%)	本年(葉)	前年差(葉)	平年差(葉)
あきたこまち(全県65地点)	県北	24.2	97%	96%	142	99%	82%	6.1	-0.1	0.0
	中央	25.5	102%	97%	131	87%	72%	6.2	-0.2	-0.2
	県南	25.3	105%	105%	117	104%	83%	5.8	0.1	0.0
	全県	24.9	102%	99%	129	98%	79%	6.0	0.0	0.0

３　野菜・果樹・花き等

（１）野　菜

全般的に５月上旬の少雨で生育は遅延傾向にあったが、中、下旬の降雨で回復している。６月に入ってからは日照不足と低温のため、再び生育が遅延傾向にある。

《ねぎ》

夏ねぎでは、４月定植のもので、一部少雨や降霜の影響で活着遅れが見られたが、降雨により回復している。

秋冬ねぎは、５月下旬の好天により定植作業が順調に進んでいる。

《アスパラガス》

降霜、降雹による被害は軽微であったが、５月中旬以降、低温や少雨により出荷量はやや少なく推移した。現在、春芽の収穫は終了し、立茎期を迎えており、間もなく夏芽の収穫が始まる。現在の単価は平均で100円／100ｇ、高値で120円と平年並である。

《ほうれんそう》

周期的な低温や、播種作業が田植えと競合したことから播種面積の減少により、現在のところ出荷量はやや少ないが、今後は増加が見込まれる。価格は平均80円／170ｇ（袋）程度、高値で110円となっており、平年並である。

《えだまめ》

４月下旬から播種作業が始まっている。５月上旬は干ばつ傾向で発芽遅れも見られたが、生育に問題はない。

現在は県オリジナル品種「あきた香り五葉」等中晩生種や晩生種の播種期となっている。「あきた香り五葉」は昨年の55haから59haに拡大している。また、本年度から本格栽培となる「あきたさやか」は14ha作付けされる。

《すいか》

県オリジナル品種の「あきた夏丸」は82haから97haに面積拡大している。現在は交配作業の終盤を迎えている。

《ミニカリフラワー》

平鹿地域のミニカリフラワーは4.4ha増加して、13.3haとなる。昨年は集落営農組織からの出荷が全販売額の半分を占めた。

《加工・業務用野菜》

集落営農組織を中心に、キャベツは5ha増加し、37ha、加工用トマトは2.5ha増加し、6.9haとなる。

（２）果　樹

《り ん ご》

　果実の肥大は平年並となっている。結実は全般に良好であるが、開花期の低温・降雨等の影響で鹿角を中心とした県北部でやや不良となっている。

　「秋田紅あかり」は、H17年の市場デビュー以来、平均単価500円/kg前後で、「ふじ」の約2.5倍の単価を維持している。栽培面積は16haまで拡大しており、今年の出荷量は40ｔを見込んでいる。

《な　　し》

　果実の肥大は平年並となっている。結実は全般に良好であるが、開花期の土壌乾燥等の影響で結実が不足している園地が見られる。

《おうとう》

　生育は平年並で、主産地の湯沢市では６月１７日から出荷が始まっている。開花期の天候に恵まれたことから結実は良好であり、平年並の収穫量が見込まれる。

（３）花　き

《キク類》

　露地栽培のキク類では９月彼岸向けの定植作業が５月下旬に行われた。８月盆出荷作型、９月彼岸出荷作型ともに生育は良好である。

《リンドウ》

　仙北地域の施設栽培のリンドウは６月１１日から出荷され、１本当たり平均単価は100～120円と高値で販売された（前年は６月８日から出荷、平均単価70円）。

　露地栽培は花芽分化期の終期を迎え、生育は良好である。

　県内の栽培面積は、前年より２ha増加し18haとなり、出荷量も70万本増の約440万本を見込んでいる。

《トルコギキョウ》

　施設栽培のトルコギキョウは７月出荷作型で出蕾期を迎えている。生育は順調に推移している。

（４）畑作物

《葉たばこ》

　植え付け作業は平年並の５月上旬にピークを迎えた。当初は水不足による生育遅れの懸念や、一部地域において降雹があったが、生育初期段階であったことから影響は少なく、その後の生育は概ね順調に推移している。

《大　豆》

　播種作業は、降雨の影響により平年よりやや遅い６月９日（平年６月５日）に盛期を迎えた。出芽は概ね良好である。

　また、今年の大豆の作付け面積は、前年並～やや増加するものと見込まれる。

４．平成２０年度決算特別委員会において「検討する」旨答弁した事項の検討状況

秋田の食販売推進課

「検討する」旨の答弁を行った事項	そ　の　後　の　検　討　状　況
秋田ブランド認証制度については、今後現場の声を踏まえ、何らかの見直しも含め検討する必要がある。	本県が導入推進しようとしているＧＡＰも含め、ブランド力を高めるような仕組みづくりについて、検討を進めている。
今年、事前にロシアの市場動向に関する調査を行いましたので、来年度しっかりした形での商談会まで持ち込めないか、検討している。	今年度、モスクワなどで米やリンゴ等の輸出を促進するための商談会を実施予定である。